

か。はてさて安<sup>やす</sup>い物やなア。すると持つて来た金が残つて来るが困つたナ。持つて歸るのも面倒ぢや。オ、向ふの地袋。あれは一人位乗つても落ちやすまいナ。』

『可<sup>た</sup>なり頑<sup>ごう</sup>丈<sup>ぢ</sup>に出来て御座ります、お一人やお二人、お乗んなしても、ビクともする氣遣はふりません。』

『宜<sup>よろ</sup>し。夫れでは私しがあの上へ昇つて。残つた小判を撒いて仕舞ほふ。何枚でも拾ふたら皆其お人の物ぢや。どうぞ澤山拾ふとくれ。』 ヒヨイと身輕に地袋棚へ上つてチヤンとお坐りになります。

『えゝツ。小判撒きイ。さア心得た。プツ。プツ。斯ふ鉢巻をして尻捲<sup>ぢりま</sup>げさして貰ふワ。俺<sup>わ</sup>いの際へ寄つたら誰れ彼れの用捨はせんで。横つ腹蹴り飛ばすぞ。』

『オイ一八。そんな無茶な事が有るか。皆が拾ふのがナ。』

『チョと姐ちやん。この櫛と簪預つといとくなはれ。』

『何云ふてんね、妾<sup>わ</sup>かて拾はんならん。』

『旦那<sup>だんな</sup>さん此<sup>こ</sup>方<sup>は</sup>へ仰山放つとくれやすや。』

『用意は宜えか。さア往くぞ。(唯はいる)……ソール



(バラ〜〜)ソールヤ(バラ〜〜)。

『キヤーツ。』

『ウワーツ。』

『アツハツハツハツ。こら面白い。今度は此方ぢや。そりや(バラ〜〜)此方も往くぞ(バラ〜〜)』

『ウワーツ。痛いッ。誰や頭蹴りやがった。』

『キヤーツ。姐ちやんあんな處まで轉<sup>ころ</sup>こんで往きやはつた。』

『そりや(バラ〜〜) 何ふぢや(バラ〜〜)面倒臭い、一遍に往くぞ(バラ〜〜)』

『ウワーツ。』

『キヤーツ。』 ドタバタ〜〜。

『アハハ、アハハ、ウーワツハツハツハツ。おゝあの慌てる事わいな。アツハツハツハ。あゝ腹が痛い。こりや堪らん。ウーム苦しい。あゝ。やゝれ面白かつた。伊八騒がしたナ。左様なら。』